

二〇一七年 十一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

自分を苦しめず、また他人を害しないことばのみを語れ。
これこそ実に善く説かれたことばなのである。

『スッタニパータ』

昔から不用意な発言は自分に災いを招く結果になるから、言葉は十分に慎むべきだとされます。

仏教には、妄語、綺語、悪口、両舌という戒めるべき悪い言葉があります。妄語は、嘘をつくこと。綺語は、特に意味のないおしゃべりのこと。悪口は、人のことを悪く言うこと。両舌は、他人の仲を裂くことは、告げ口のこと。

友達に嘘をつきバシて気まずい関係になった。授業中おしゃべりをして先生に怒られた。自分が嫌な人のことを陰で悪く言ったら近くで聞かれていた、などなど…。

言葉に関するトラブルは、今も昔も変わりません。

「言葉を大切に」するということは、今月の言葉にあるように、自分を苦しめないように、他人を害しないように、慎重に言葉を選ぶことでもあるのではないのでしょうか。

今月の聖語

善からぬこと、己のためにならぬことは、なし易い。
ためになること、善いことは、実に極めてなし難い。

『ダンマパダ』

「勉強の息抜きで始めたゲームをやめられない」「授業中、気がつくとも関係のないことを考えてしまっている」「家の手伝いを頼まれても、いつも返事は『また後で』」。

自分のためになること、善い行いだとわかっていても、なかなかできない。一方、ためにならないこと、ダメなことは、ついついしてしまう。

誰しもそんな思いをしたことはありませんか。

今月の聖語は、そのような私の「弱さ」を言い当ててくれているように思います。今一度、自分のあり方を見つめ直すとともに、本当に自分のためになることはどのようなことか考えていきたいものです。